①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・百分率の意味を理解し，百分率を用いた計算をすることができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・もとになる数量がわからないとき，いくつかの数をあてはめて帰納的に考える学習をしている。

≪学習問題≫

品物を定価の半額にしてさらに20%引きする安井洋服店と，品物を定価の20％引きしてさらに半額にする得田

洋服店がある。同じ定価の洋服を買うとした

ら，どちらの洋服店で買った方が安いだろうか。

教材研究ノート№5-C-2

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

****

②見通し：最初に半額になる方が安いのかな。定価によっては，安いお店が変わるかもしれない。

→仮の定価を決めて，計算をして確かめればよさそうだ。

②学習課題：1000円や1500円と定価を決めて計算し，半額の20％引きと，20％引きの半額ではどちらが安いか確かめよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：定価をいろいろ設定して値段を比べ，どの場合にどちらが安いか説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「定価を色々決めて計算して，どんなことがいえたのかな？」

→「定価が1000円なら，どちらの店も400円になる。」

「どの定価でも，値段は同じになった。」

「最初の値引きでは安井洋服店の方が安くなるが，最後は同じ値段になる。」

④共同追究後半（思考を深める）

「定価の半額にしてから20％引きしても，定価の20％引きしてから半額にしても値段が同じになるのはなぜだろう？」

→「半額の20％引きは定価の0.5×0.8＝0.4倍になる。20％引きの半額も定価の0.8×0.5＝0.4倍になる。」

「かけ算は，順序を入れ替えても積は変わらなかった。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・同じ割合で値引きをする場合には，値引きの順番に関係なく値段は同じになることがわかった。

・ある数量の2倍の3倍が2×3＝6倍になるように，割合と割合をかけると元の数量に対する割合を求めることができる。

⑥定着･活用問題

デパートの3階の面積の40％が洋服売り場で，そのうちの60％が子ども服売り場です。子ども服売り場の面積は，3階全体の何％になりますか。また，3階の面積を2000m２として確かめましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・「○％引き」という表現を計算に結び付けらない児童には，線分図を用いて定価と売り値の関係をつかませたい。

・「○％引き」と「○円引き」を混同して，「○円引き」が混じった場合にも売り値が等しくなると考えている児童がいる場合には，「定価1000円の品物を，300円引きしてから20％引きする場合と，20％引きしてから300円引きする場合」を比較する定着・活用問題を準備することもよい。